

千葉県立博物館の事業に係る意見交換会 自己評価票

達成度（数値達成度のめやす）		自己評価	総合評価
達成	目標値≧100%	4	A
ほぼ達成	目標値≧80%	3	B
やや不十分	目標値≧50%	2	C
不十分	目標値<50%	1	D

満足度欄の達成度		自己評価
達成	達成値≧75%	4
ほぼ達成	達成値≧65%	3
やや不十分	達成値≧50%	2
不十分	達成値<50%	1

分類	大項目	中項目	小項目			達成状況	総合評価	備考	
			上段：達成値	下段：目標値	値の説明				数値
I	収蔵資料の整理・保存有効活用・調査研究	収蔵資料	1	博物館資料の受入等	1年度実績	1351点	4	A	年度内新規資料登録点数
					館設定の目標	600点			
			2	資料の情報化・公開実績	1年度実績	676点	4		年度内新規登録資料のうちデジタル画像・映像を作成した資料数（標本の半数とした）
					館設定の目標	300点			
			3	資料収集の回数	1年度実績	106回	4		資料収集に出かけた回数（当該年度分の聞き取り調査結果による）
					館設定の目標	80回			
		収蔵資料の有効活用	4	館外貸出（外部機関等展示等）	1年度実績	9件	4	A	登録標本貸出件数+年報用「4利用」
					要望のあった件数	9件			
					1年度実績	16件			
		要望のあった件数	16件						
		調査研究	5	館内利用（学術調査等）	1年度実績	11件	4	A	年報用の「4利用」で報告した数値のうち、著作物の件数（施工先の数）
					要望のあった件数	11件			
1年度実績	12件				4	総合研究+専門研究			
館の計画	11件								
調査研究	8	共同調査事業件数	件数	1年度実績	2件	4	A	年報用の「③他機関との共同研究」と科研	
				館設定の目標	1件				
調査研究	9	研究成果の公開状況	論文研究報告	1年度実績	15件	4	A	年報用の「⑥学術論文・学術書」+「⑦学術報告書」	
				館の計画	8件				
大項目Iの総合評価（A～D）						A			
博物館コメント	小項目1は受動的な受入だけでなく、館の資料収集活動で採集したものも含んでいる。博物館資料は、有効活用の件数を想定して収集・保管されるものではないため、小項目4-6については、目標を要望のあった件数とし、申し出があった案件にすべて対応した。すべての項目で目標を達することができた。								

分類	大項目	中項目	小項目				達成状況	総合評価	備考		
			上段：達成値		下段：目標値					値の説明	数値
II	入館者数と来館者の満足度	来館状況	1	博物館	入館者数	1年度実績	49,868人	3	C	目標は23年度数値を参考にした数値	
						館設定の目標	52,000人				
			2	企画展（マリンサイエンスギャラリー） 超深海	入館者数	1年度実績	1,656人	1			目標は21-28年度数値を参考にした数値
		館設定の目標				8,000人					
		3	企画展（収蔵資料展） 魚がつくる模様と形	入館者数	1年度実績	17,885人	3	H29収蔵資料展期間中入場者統計ファイル（テラ¥展示¥収蔵資料展）			
					館設定の目標	20,000人					
		展示の充実	4	常設展示	更新回数	1年度実績	68回			4	A
						館設定の目標	50回				
						5	企画展 (ツノシマクジラ) ツノシマクジラ	実施回数			
館設定の目標	2回										
6											
総合的な満足度	7	博物館	アンケート満足度 「とっても良かった」+「良かった」 の割合	1年度実績	92%	4	A				
				8	企画展 (マリンサイエンス ギャラリー 超深海)			1年度実績	98%	4	
				9	収蔵資料展 魚がつくる模様と形			1年度実績	90%		
大項目IIの総合評価（A～D）							B				
博物館コメント	博物館、企画展示についてのお客様の満足度は例年同様、高い評価を受けている。しかし、入場者数については、新型コロナウイルス感染防止対策のため3月2日以降休館となり、大きく減少した。										
III	財源の確保	入場料	1	入場料収入	達成率	1年度実績	97%	3	A	年報の「①科研」と「②科研以外」	
						前年度実績	94%				
		外部資金	2	外部資金の獲得	件数	1年度実績	3件	4			
						館設定の目標	2件				
大項目IIIの総合評価（A～D）							A				
博物館コメント	入場料収入は昨年をやや下回り、外部資金の獲得件数は科研費を3件（研究分担1件を含む）獲得するなど目標値を上回った。これらの間接経費の有効活用については本館との調整を含め検討が必要である。										
IV	広報活動の積極的な展開	1	HP等の情報発信	アップ数	1年度実績	92回	4	A			
					館設定の目標	30回					
		2	HPでの利用状況	アクセス数	1年度実績	52,579件	4				
					館設定の目標	42,000件					
		3	報道機関への情報発信	取材件数	1年度実績	96件	3		年報の「記者発表」「行事情報の発信」「メディア		
					館設定の目標	100件					
大項目IVの総合評価（A～D）							A				
博物館コメント	HPに関しては、アクセス数は昨年度を大幅に上回り、目標値に達することができた。取材件数が目標値を下回ったのは、マリンサイエンスギャラリー開催期間中に新型コロナウイルス予防対策のため休館した影響が大きかった。										

分類	大項目	中項目	小 項 目				達成 状況	総合 評価	備考
			上段：達成値	下段：目標値	値の説明	数値			
V	学校及び地域（関係団体）との連携・協働	学校との連携	1	学校利用受入	学校数	1年度実績	30校	4	A
					要望があった数	30校			
			2	入館者数	1年度実績	2003人	4		
					要望があった数	2003人			
			3	生徒・児童	入館者数	1年度実績	2003人	4	
		要望があった数				2003人			
		4	博学連携（幼小中高への出前講座等）	学校数	1年度実績	校			
				利用者数	要望があった数	0校			
		地域関係団体との連携	6	団体数	1年度実績	21団体	3		
					要望があった数	21団体			
7	連携・共催（大学、NPO等）		利用回数	1年度実績	21回	4			
				要望があった数	21回				
8			利用者数	1年度実績	1778人	4			
		要望があった数		1778人					
9									
10	ボランティア活動	活動延人数	1年度実績	87人	3				
			前年度実績	100人					
大項目Vの総合評価（A～D）							A		
博物館コメント	他団体との連携は、野外実習授業（磯観察等を伴った学校への対応）、団体フィールドトリップ（磯観察等を伴った社会教育施設等各種団体への対応）、展示解説（バックヤードを含めた施設内見学対応）、地域連携（市町村等地域団体が主催する行事等への協力）として要望のあったものすべてを受け入れた。ボランティア活動は、年々減少傾向にあるので、協力を依頼する機会を増やすなど、活動を促す取り組みの検討も必要と思われる。								

分類	大項目	中項目	小項目				達成状況	総合評価	備考			
			上段：達成値	下段：目標値	値の説明	数値						
VI	教育・普及活動	来館状況	1	観察会	参加者数	1年度実績	100人	2				
						募集員数	155人					
			2	講座	参加者数	1年度実績	6人	1				
						募集員数	75人					
			3	フィールドトリップ	参加者数	1年度実績	133人	3				
						募集員数	150人					
		4	バックヤードツアー	参加者数	1年度実績	124人	3					
					募集員数	135人						
		5	みんなで工作 海の生きもの	参加者数	1年度実績	72人	3					
					募集員数	90人						
		6	海の体験コーナー	参加者数	1年度実績	203人	3					
					募集員数	240人						
		総合的な満足度	7	観察会	満足度「とっても良かった」+「良かった」の割合	1年度実績	100%	4		A		
						8	講座	1年度実績			100%	4
						9	フィールドトリップ	1年度実績			100%	4
						10	バックヤードツアー	1年度実績			100%	4
						11	みんなで工作 海の生きもの	1年度実績			97%	4
利用状況	17	相談件数 (来館、メール、電話等)	利用件数	30年度実績	646件	4	A					
				要望数	646件							
大項目VIの総合評価 (A~D)							A					
博物館コメント	令和元年度は、夏季の悪天候や冬季の新型コロナウイルス感染予防対策の休館のため、参加者数は全ての行事目標を下回った。しかし、参加者の満足度は例年同様高く、好評である。今後、参加者の満足度を維持するため行事の質を落とさないようにしつつ、参加者数を一定以上確保できるように、魅力的な行事タイトルの検討や広報の充実を図る必要がある。											

分類	大項目	中項目	小項目			達成状況	総合評価	備考	
			上段：達成値	下段：目標値	値の説明				数値
VII	人材育成と安全管理	実習 研修	1	博物館実習	1年度実績	/	A	職場体験は先方からの依頼で行っており、12名の希望だった	
					館設定の目標				
			2	教員等の研修	1年度実績	45人			4
					館設定の目標	30人			
		3	職場体験	1年度実績	12人	3			
				館設定の目標	15人				
		4							
		5	研修会の開催	実施回数	1年度実績	1回	4		B
					館の計画	1回			
6	防災訓練実施等	実施回数	1年度実績	2回	2				
			館の計画	3回					
大項目VIIの総合評価（A～D）						A			
博物館コメント		職場体験に関しては依頼された回数について実施した。							
VIII	観光資源としての活用	観光連携	1	県外来館団体入込	1年度実績	42団体	4	A	
					前年度実績	42団体			
			2		1年度実績	2812人	3		
					前年度実績	3058人			
		3	外国人来館入込		1年度実績	1団体	4		
					前年度実績	1団体			
		4			1年度実績	215人	4		
					前年度実績	150人			
大項目VIIIの総合評価（A～D）						A			
博物館コメント		県外来館団体入込は、学校関係は予約でほぼ前年並み、学校外では予約なしの飛び込みが多い。目黒区、小金井市等は毎年多くの小学校が来館する。初めて来館する学校等が来年以降も来館してくれるよう丁寧な対応をして常連の団体を増加させることが必要。							
総合評価（A～D） [各達成度の平均]						A			
総合評価と次年度への対策		<p>博物館活動の基盤となる資料の収集・整理・保管・活用や調査研究は総じて目標値をクリアしており、前年度に引き続き高い水準を維持している。一般の方がまず目にする展示活動では、入館者の満足度は高い水準を維持する一方、3月以降休館となったため、入館者数は前年度より若干減少している。教育普及活動では海の生きものを対象とした多彩な活動が展開されており、学校や各種団体からの要望を受けて出前授業や実習、フィールド観察などを行っている。一般向けには、講座や観察会などを実施しており、参加者の満足度は高い水準を維持している。</p> <p>以上のように、分館海の博物館では資料収集、調査研究、展示、教育普及のそれぞれの活動をバランスよく精力的に行っているが、利用者数、特に入場者数が伸び悩んでいる。しかし、一般に博物館施設において展示リニューアルを行わない場合、5年で入場者数が3割減少するとされており、それを念頭に置くと当館の入場者数の減少は踏みとどまっていると考えられる。リニューアルの未実施以外に考えられる入場者数減少の原因としては、南房総地域への観光客の減少、少子化による学校の統廃合、レジャーの多様化など様々な要因が関連していると考えられる。広報戦略やマーケティングなど見直すことも一つの手段と考えられる。</p>							